



音を頼りに目標に向かってシュートを放つ参加児童

## 人権への意識を高める 障がい者スポーツ体験

9月5日、スポーツ体験型人権教室が葛巻小学校体育館で行われ、同校の4年生から6年生の児童約50人が参加しました。

この日は人権擁護委員による人権教室とコルジャ仙台ブラインドサッカークラブの選手による体験教室が行われ、参加した子どもたちは目隠しの状態でサッカーをプレーする難しさや声を掛け合う大切さを学んだ様子でした。服部結羽さん（6年）は「人権の保護は日常だけでなくスポーツにも共通すると学ぶことができた」と話し、人権に対して理解を深めていました。

## 誰もが安心できる町へ 認知症サポーター養成

9月5日、認知症サポーター養成講座がくずま〜るで行われました。この講座は認知症の人やその家族などを支える認知症サポーターを養成する講座で、町内から15人が参加しました。講座では認知症を正しく理解することや共に生きるためにできることなどが説明され、参加者は関心を持って受講していました。

参加した吉澤ツエさん（田子）は「子どもからお年寄りまで認知症への理解が広がってほしい」と話し、みんなで支え合える町づくりに意欲を見せていました。



講師を務めた県高齢者総合支援センターの玉山公一副センター長（円内）と講師の話真剣に聞く参加者

## 親子のふれあいの場 なかよし広場を開催

9月13日、なかよし広場が行われ、親子や子ども同士の触れ合いを深めました。この日はくずま〜るから葛巻保育園まで散歩をしてから同園でボール遊びや乗り物遊びをしました。保護者の皆さんは「広いホールなので、動き回ることができるのはうれしい」と自宅ではできない遊びや同じ世代の子ども同士の交流を楽しんだ様子でした。

なかよし広場は音楽や運動、創作など親子で楽しめるさまざまな活動を行う場で、毎週金曜日にくずま〜るで開かれています。



葛巻保育園のホールで交流を深める参加者たち



親睦を深めながら好プレーを見せる選手たち

## 地域の繋がり深める ママさんバレー大会

9月1日、町バレーボール協会（内藤清昌会長）主催の第38回町ママさんバレーボール親善大会が社会体育館で行われ、町内から3チーム約20人が参加しました。試合は3チーム総当たり戦で行われ、選手たちは自分のチームだけではなく相手チームの好プレーにも拍手を送り、終始笑顔でプレーしていました。

毎年参加している榎林絹子さん（浦子内）は「毎週ママさんバレーをやっているのでも、多くの皆さんに参加してもらいたい」とバレーが地域交流のきっかけになればと話していました。

## 暮らしの充実に向けて 定住奨励金などを交付

定住奨励金および新婚ライフサポート金交付式は9月2日、くずま〜るで行われ、星野海斗さん（星野）に鈴木重男町長から交付金が手渡されました。

鈴木町長は「交付式という形で町民と直接会って町の取り組みをお伝えしている。皆さんからも制度の情報発信をお願いしたい」とあいさつ。交付金を受け取った星野さんは「交付金は町の特産品などの購入に使いたい。豊かな自然を感じながら元気に生活していきたい」と今後の暮らしの充実に期待を寄せている様子でした。



鈴木町長（手前）から交付金を受け取る星野さん家族

## 牧場杯ゲートボール 仲間との友和を図る

9月4日、第22回くずまき高原牧場杯ゲートボール大会がもく・木ドームで行われ、5チーム約30人が出場しました。

主催者の（一社）葛巻町畜産開発公社理事長の鈴木重男町長は「競技を通じて、健康増進と仲間との友和を楽しみながら優勝目指して頑張ってください」と選手たちを激励しました。競技では仲間同士声を掛け合い、好プレーには声援や拍手で選手をねぎらうなど連携のとれたプレーを見せ、熱戦が繰り広げられました。競技の結果は「まべちがわ」が優勝を果たしました。



狙いどおりの一打を目指してプレーに集中する選手